

平成26年度指導の重点  
楽しく、確かな学びを創り出す児童の育成

平成26年度 研究主題  
子どもが学ぶ楽しさを味わう学習指導づくり

研 究 副 主 題		
国 語 科	算 数 科	理 科
読む力を育む、 説明文教材の指導を通して	算数的活動の 活性化を通して	子どもが主体となって 問題を見いだす 学習活動の工夫
研 究 仮 説		
教科の特性をふまえ、下記のような手立てを取れば、子どもは進んで学習に取り組み、確かに内容・方法を理解し、学ぶことの楽しさや達成感を味わうことができるであろう。		
<b>手立て1</b> 単元を貫く言語活動を設定した単元構成の工夫  <b>手立て2</b> 説明文の読み方、用語の定義や具体的な方法の明確化  <b>手立て3</b> 読みの視点と思考方法の明確化	<b>手立て1</b> 問題提示の工夫  <b>手立て2</b> 問題解決過程における教師の支援  <b>手立て3</b> 話し合い活動における教師の支援	<b>手立て1</b> 子どもの認知的葛藤を誘発する事象や場の提示  <b>手立て2</b> 問題解決のプロセス（ステップ）の工夫  <b>手立て3</b> 獲得した知識を活用する場の設定

1 学ぶ楽しさとは

子どもが授業が楽しくてたまらないと感じる時は、次のようなときである。

- (1)子どもたちにとってよくわかり、よくできるようになったとき(進歩・向上・達成)
- (2)自分の学習が授業に生かされ、皆の役に立ったことを意識するとき(承認・優越)
- (3)教科や教材そのもののよさとすばらしさを味わうとき(真理・価値)
- (4)自力で考え、自力で解決し、学習の成功を体験したとき(独立・成功)
- (5)みんなで協力して学習を深めたり、創り上げたり、発見したりしたとき(協働・協同)
- (6)その他

このことから、「学ぶ楽しさを味わう学習」とは

子ども一人一人が課題意識をもち、進んで学習に取り組み、感じたり、考えたり、試したりしながら物事を確かめ理解し、学ぶことの楽しさや達成感・満足感を味わうことのできる学習である。

そこには、次のような具体的な子どもの姿が期待できる。

- ・必要感、切実感をもって課題をつかもうとしている子ども
- ・既習学習や経験をもとに、解決の見通しや方法を見つけようとしている子ども
- ・既習の解決方法を駆使して、粘り強く解決しようとしている子ども

- ・友だちと交流しながら、考えを深めたり、広げたりする子ども
- ・自分の伸びや高まりに気づいたり、わかる・できる喜びを味わったりする子ども

## 2 「学ぶたのしさを味わう学習」の視点

### ①基礎・基本はふまえられるか

- ・主眼の妥当性
- ・主眼、めあて、まとめの一貫性

### ②興味ある導入であるか(導入)

- ・子どもの学習意欲や問題意識を掘り起こす。
- ・教師の指導のねらいと子どもの問題意識をすりあわせる。

### ③価値ある見方・考え方・表現を認められるか(見通し・解決)

- ・問題や課題の解決策を考え、自分らしく表現する活動を連続的に展開する。

### ④子どもの読書経験や体験、多様な思考が生かされるか(交流・練り合い)

- ・言語活動の充実を意識した表現活動や意見交流の場を設定する。
- ・自分とは違った問題の解決策や問題解決の道筋を導きだした友だちがいることに気づかせる。
- ・問題の解決策や問題解決の道筋の根拠となる事実・叙述とその解釈などを比較し、共通点や相違点を吟味・検討する協働思考の場を設定する。
- ・互いの考えを十分理解し合った上で、最善の解決方法や解釈はどれか合意形成したり、自分はどの考えを選ぶか意志決定したりする。

## 3 「学ぶ楽しさを味わう学習」の具体的展開

### ①研究授業

○全員一実践とし、1学期の研修時に授業単元と授業場面を決定し、夏季休業中に学習指導案を作成する。(各部会で講師招聘等も考えられる。)

- ・9月8日(月)に各部会代表者提案授業(市内小学校へ案内)
- ・2～3学期にかけて各部会で研究授業を行う。
- ・研究授業の参観は、各自の所属教科の授業と同学年の授業とする。その他については、参観は自由に行う。

※ 本年度は、学校訪問(日時未定)がある。その際は、自分の研究教科の授業を公開する。

### ②実践計画

○指導案(別途提案)とする

- ・本時案には主な発問(1単位時間のうち2～3)を記載する。

### ③実践のまとめ

○各部で授業反省会を行い、改善指導案を作成する。

- ・子どもへの事前・事後アンケートの比較、振り返りなどから、また、発言・様相チェック、ノートなどをもとに、主眼達成について検証する。
- ・協議をもとに、改善指導案を作成する。
- ・記録として板書を写真で残し、改善案に添付する。

※ 授業の記憶が薄れないうちに、改善指導案を作成し、授業後2週間以内に係までA4用紙で提出する。また、改善指導案・学習プリント等の資料・写真等のデータを指定の共有フォルダに入れる。

#### 4 「学ぶ楽しさを味わう学習」の検証・まとめ

##### ①研究のまとめ

○年度末に各部会の取組について検証し、各部のまとめを(別途提案)作成する。

・各部で、データ分析を行い、取組の成果、課題を明確にする。

アンケート 意識調査を6月・2月に行う。

学カテスト CRT (前年度の1月実施分と本年度実施分)で一人一人を検証

・次年度に向けて、改善点を明確にする。

○研究のまとめとして、改善指導案と授業に関する資料等、各部の取組についての検証(データ分析・検証 と改善点)を共有フォルダに保存する。紙を媒体とした物は、記録用として1部作成する。

#### 5 研究教科グループ

【国語】◎安永(6-3)、佐竹(1-2)、松岡(2-1)、徳重(3-3)、  
西野(4-2)、手嶋(5-2)、荒木(なかよし1)、久保(なかよし2)、  
横山(補助)、清水(教頭)

【算数】◎川畑(6-2)、松熊(1-3)、辻(2-2)、岸(3-1)、篠原(4-3)、  
久保山(5-1)、宮岬(指導方法)、小中(指導方法)、近藤(養護教諭)、  
合澤(主幹教諭)

【理科】◎合屋(理科専科)、加藤(1-1)、瓜生(2-3)、有門(3-2)、  
上野(4-1)、森高(5-3)、平田(6-1)、佐藤(人権・同和)、  
中村(栄養)、林(校長)

